

水辺の小さな自然再生をはじめる際のチェックリスト

2025年3月 （公財）リバーフロント研究所

小さな自然再生の進め方に決まったルールはありません。

仲間でワクワク楽しみながらアイデアを深め、できることから気軽に挑戦し、その結果（自然や地域の応答）を見て軌道修正をしながら、少しずつ望ましい姿に近づけていけば大丈夫です。（このプロセスを「見直し」と言います）

とは言え、ある程度全体像が見えていた方が安心するという方は、これまでの先人の経験から得られた、「小さな自然再生」に新たに取組む際のチェックリストを参考にしてみてください。

①【課題発見】（Why?）

小さな自然再生で解決したい困りごとは何ですか？

②【目標設定】（What?）

小さな自然再生で達成したい夢や未来の姿、成し遂げたい目標は何ですか？

③【実施体制】（Who? with Whom?）

誰がやりますか？ また、誰とやりますか？

④【場所選定】（Where?）

どこで小さな自然再生に取り組めますか？ それは何故ですか？

⑤【実施時期】（When?）

いつ取り組みますか？ それは何故ですか？

⑥【適用工法】（How?）

どんな技術、工法で取り組みますか？

⑦【材料・工具】（How?）

必要となる材料、工具は？ どのように調達しますか？

⑧【資金源】（How?）

活動に必要な費用はどう工面しますか？

⑨【関係者調整】（How?）

取組にあたり事前に調整が必要な方々は誰ですか？

⑩【効果把握】（How?）

どのような方法で、誰が取組みの効果を確認しますか？



Collaborative Nature Restoration
水辺の小さな自然再生



公益財団法人
リバーフロント研究所

水辺の小さな自然再生をはじめる際のチェックリスト & ヒント

2025年3月 （公財）リバーフロント研究所

小さな自然再生の進め方に決まったルールはありません。
仲間でワクワク楽しみながらアイデアを深め、できることから気軽に挑戦し、その結果（自然や地域の応答）を見て軌道修正をしながら、少しずつ望ましい姿に近づけていけば大丈夫です。（このプロセスを「見試し」と言います）
とは言え、ある程度全体像が見えていた方が安心するという方は、これまでの先人の経験から得られたヒントも参考に、「小さな自然再生」に新たに取組む際のチェックリストを参考にしてみてください。

①【課題発見】（Why?） 小さな自然再生で解決したい困りごとは何ですか？		⑥【適用工法】（How?） どんな技術、工法で取組めますか？	
☐ かつてたくさん生息し地域に親しまれていた種（サケ、アユ、ビワマス、ホタル等々）の生息数が激減した。 ☐ 河川横断構造物（取水堰、落差工等）の落差、流入水路と本川の落差が魚類やエビ・カニ類の移動の障害となっている。 ☐ 河川改修により流れが直線化・単調化し、魚類や水生昆虫等の生息・生育・繁殖の場が減ってしまった。 ☐ 川が本来有していた変動・攪乱の減少や、異常気象による過度な土砂流入により、魚類等の産卵環境が失われている。 ☐ 湿地環境の陸地化や耕作放棄地が増えて水田環境が減り、地域の水場が減少し、生物多様性が失われつつある。 ☐ かつての豊かな川文化（地域と川の密接な関係）が失われることで、地域の賑わいや地域防災力も失われつつある。 etc.		<u>（連続性の回復：魚道）</u> ☐ 縦断方向魚道では、石積みや土のう積み、木製や鋼製の箱型、木製や土のうの斜路型、水辺のこわざ、下流からプールを形成し落差を軽減する下流堰上げ型などがある。 ☐ 横断方向魚道では、根固めブロック式や単管パイプがある。 ☐ 既設魚道の改良（再生）も連続性回復の重要な取組み。	<u>（生息・生育・繁殖場の造成）</u> ☐ 瀬淵やワンド、二次流路づくりではバープ工が多く適用され、石積み、土のう、ブロック、コンクリート、複合材など様々なタイプがある。 ☐ 掘削、寄せ石、河床耕起、砂利投入、U字溝など既製品設置、竹束など人力でできる工法がある。 ☐ 外来種除去やシードバンクによる在来種再生も重要。
②【目標設定】（What?） 小さな自然再生で達成したい夢や未来の姿、成し遂げたい目標は何ですか？		⑦【材料・工具】（How?） 必要となる材料、工具は？ どのように調達しますか？	
☐ シンボル種（サケ、アユ、ビワマス、ホタル等々）の復活を目標に掲げ、地域の仲間を募りながら活動を展開。 ☐ 落差を解消することで上下流や横断方向の連続性を再生し、魚類や水生昆虫等の生息・生育・繁殖の場を上流域へ増やす。 ☐ 瀬淵やワンド、二次流路や水際植生が繁茂する寄り洲等の多様な場を、流れの多様性を創出する。 ☐ かつての川の自然の営みや湿地環境の劣化を、人力でアシストしてシンボル種の産卵環境や生息・生育環境を手助けする。 ☐ 小さな自然再生を活用して地域住民と川とのつながりを復活させ、川と人と自然の関係性を再構築する。 etc.		<u>（材料・工具・調達方法）</u> ☐ 現場にある地産地消の材料（砂利等）、河川工事で余った材料や間伐材の有効利用を最優先に考える。 ☐ 河川内に外から資材を持ち込む場合には河川管理者の許可取得が必要。 ☐ 壊れても、流されても下流に悪影響を与えない材料の選定を。土のうは生分解性など、脱プラスチック素材の使用も要考慮。 ☐ 工具は、地元建設会社や農家など、連携する仲間から持ち寄ることが望ましい。工事の序にユンボで掘ってもらうなどもあり。	
③【実施体制】（Who? with Whom?） 誰がやりますか？ また、誰とやりますか？		⑧【資金源】（How?） 活動に必要な費用はどう工面しますか？	
<u>（誰が?）</u> ☐ 活動主体となる団体は、市民団体、行政機関、学校・教育機関、民間企業、漁協・森林組合、公益法人の順である。 ☐ 協議会や委員会を設置して取組む事例もある。 etc.	<u>（誰と?）</u> ☐ 連携先は、行政機関、学校・教育機関、市民団体、民間企業、漁協・森林組合、公益法人の順であり、連携する目的（手続き簡素化、専門性獲得、資金確保 etc.）により連携先も異なる。 ☐ 上記の複数のセクターと連携するケースが7割以上ある。 etc.	☐ 活動主体メンバーの自己資金でできることもたくさんある。まずは自己調達できる資金でできることから始めるのが小さな自然再生。（小さな自然再生の3条件の一つは「自己調達できる資金規模であること」） ☐ 助成金、クラウドファンディング、地元行政からの補助金、河川管理者からの支援、企業からの寄付、賛同者の投資（例：東近江版SIB）など、活動に必要な外部資金の財源は様々。多くの事例で、様々な財源を掛け合わせ、かき集めながら活動を展開。	
④【場所選定】（Where?） どこで小さな自然再生に取組めますか？ それは何故ですか？		⑨【関係者調整】（How?） 取組にあたり事前に調整が必要な方々は誰ですか？	
☐ 落差など課題となっている場所、またはその下流部で取組む。（魚道づくりの多くはこのケース） ☐ 生物の生息・生育・繁殖の観点から効果的な場所を選定する。（川の営みや生物の営みを読む力、専門家の指導が必要） ☐ 作業しやすさ、造ったものの壊れにくさ、アクセス性、安全管理面などから場所を選定する。 ☐ 水辺の楽校や小中学校傍など、活動主体のアクセス性から活動場所を選定する。（環境教育等に主眼が置かれる場合など） ☐ 地域住民の目に触れやすい、シンボリックなスポットを選定する。（賑わい創出等のまちづくりに主眼が置かれる場合など） etc.		☐ 河川には河川管理者が、横断構造物には施設所有者が、水路などにも土地改良区など利水管理者が存在し、取組みに際しては管理者の合意が大前提となる。 ☐ 利害関係者（漁業関係者、下流での利水者、工事業者等）との丁寧な調整も不可欠。 ☐ 上記関係者から応援される、感謝される取組みとすることが活動計画に際しては重要。河川管理者や地元行政との良好な関係構築のために、河川協力団体やアダプト制度への登録している活動主体も多く存在する。	
⑤【実施時期】（When?） いつ取組めますか？ それは何故ですか？		⑩【効果把握】（How?） どのような方法で、誰が取組みの効果を確認しますか？	
☐ 対象とする生物の生活史を踏まえ、遡上時期や産卵時期等を考慮した相応しい時期に取組む。 ☐ 利害関係者に迷惑をかけない時期（利水者、漁業者、工事業者等々）に取組む。 ☐ 出水期（洪水シーズン）、猛暑期、極寒期などを避けた作業性を優先した時期に取組む。 ☐ 実施主体や連携主体関係者の集まりやすさの観点から実施時期を設定する。（関連イベントとのコラボ企画など）		☐ 取組後の効果の測定を目的に、生物環境のモニタリング調査、物理環境の変化の観察、また地域の関心向上を図るためのアンケート調査などが実施されている。 ☐ 取組前の現状の環境把握を含め、効果の把握には専門家のサポートが必要となるため、活動主体メンバーとして専門家が参加したり、専門家を有する組織と連携して取組むなど工夫が行われている。	